

```

*****
**                                  **
**      ◇◆Cisco Prime LMS連携ツール説明書◆◇      **
**                                  **
**      Systemwalker Centric Manager Standard Edition V13.5.0      **
**      Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition V13.5.0      **
**                                  **
**      Cisco Prime LAN Management Solution 4.2                    **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
**                                  **
*****

```

本書は、製品の取扱い、ご使用に際して特に注意すべき事項、参考となる情報等を記したものです。

[高度な安全性が要求される用途への使用について]

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。

お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

■商標について

- ・ Cisco Primeは米国Cisco Systems Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Microsoft、WindowsおよびWindows Serverまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ・ Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- ・ UNIXは、米国およびその他の国におけるオープン・グループの登録商標です。
- ・ OracleとJavaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- ・ その他の会社名および製品名は、それぞれの会社の登録商標もしくは商標です。

本文中の記載内容は予告なしに変更される場合があります。

■略語表記について

本書では、各製品を次のように略記しています。あらかじめご了承ください。

- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard,
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise,
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard (x64),
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise (x64),
を“Windows Server 2008”と略しています。
- ・ Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard (x64),
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise (x64)
を“Windows Server 2008 R2”と略しています。
- ・ Microsoft(R) Windows(R) XP Professional,
を“Windows XP”と略しています。
- ・ Windows(R) 7 Professional,
を“Windows 7”と略しています。
- ・ Windows(R) Operating Systemを“Windows”と略しています。
- ・ Red Hat Enterprise Linuxを“Linux”と略しています。
- ・ Oracle SolarisはSolaris, Solaris Operating System, Solaris OSと記載することがあります。

<第1版(2012年11月)から第1.1版(2013年3月)への変更点>

- 1) メニュー登録ツールを使用してSystemwalkerコンソールに登録したCiscoViewの呼び出しメニューからのCiscoView起動が失敗する不具合を修正しました。

0. 本ツールについて(必ずお読みください)

本ツールは、Systemwalker Centric Manager Standard Edition/Enterprise Edition V13.5.0(Windows版/Solaris版/Linux版)とCisco Prime LAN Management Solution 4.2との連携を容易に実現するためのものです。

(1) 本ツールの提供情報

- ・ readme.txt 実施時の留意事項、製品固有の説明(本書)
- ・ scmtocp20130322.exe Cisco Prime LMS連携ツール

(2) 本ツールをご使用にあたって

この設定ファイルのご使用にあたっては、下記のご使用条件をお守りください。このご使用条件を遵守できない場合には、本ツールは使用しないでください。

- ・ 本ソフトウェアは、1. 適用条件に記載の対象機種に対してのみご使用できます。
- ・ 本ソフトウェアの再配布はできません。
- ・ 本ソフトウェアを改造したり、リバースエンジニアリング、逆アセンブル等を行うことはできません。
- ・ 本ソフトウェアに関するいかなる著作権表記も変更できません。
- ・ 本ソフトウェアを使用した結果、損害が発生しても弊社は責任を負いません。

(3) 互換情報
ありません。

(4) 本ツール適用時の注意事項

- ・ 本ツールを適用するにあたっては、「Cisco Prime LMS連携ガイド」を熟読の上、実施していただくようお願いいたします。
また、Systemwalker Centric Managerの最新応急/緊急修正を必ず適用してください。

1. 適用条件

Cisco Prime LMS連携ツールは、利用するツールにより、以下のいずれかのマシンにインストールして使います。各製品の適用条件を確認してください。

- (1) Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバ
- (2) Systemwalker Centric Managerの運用管理クライアント
- (3) Cisco Prime LMSが動作するサーバ

Cisco Prime LMS連携ツールの動作場所は以下のとおりです。

Cisco Prime LMS 連携ツール	動作場所		
	(1) 運用管理 サーバ	(2) 運用管理 クライアント	(3) Cisco Prime 動作サーバ
インポート用 CSV作成ツール	○	○	
メニュー登録 ツール	○	○	
Syslog Syslog連携 連携 コマンド作成 ツール			○
	Syslog変換	○	
DFM連携ツール	○		
Change Audit 連携ツール	○		

2. 適用方法

(1) Administrator権限を持つユーザIDで、Cisco Prime LMS連携ツールをインストールするマシンにログオンします。

(2) ダウンロードしたCisco Prime LMS連携ツール(scmtocp20130322.exe)を運用方法に応じてコピーします。

- ・Cisco Primeを専用サーバとし、Systemwalker Centric Managerは運用管理サーバのみの場合

Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールしたドライブ直下にコピーします。(例: C:\scmtocp20130322.exe)

- ・Cisco Primeを専用サーバとし、Systemwalker Centric Managerは運用管理サーバと運用管理クライアントが存在する場合

Systemwalker Centric Managerの運用管理クライアントをインストールしたドライブ直下にコピーします。(例: C:\scmtocp20130322.exe)

- ・Cisco PrimeをSystemwalker Centric Managerの運用管理サーバに同居させる場合

Systemwalker Centric Managerの運用管理サーバをインストールしたドライブ直下にコピーします。(例: C:\scmtocp20130322.exe)

(3) 以下のコマンドを実行し、Cisco Prime LMS連携ツールを解凍します。

```
scmtocp20130322.exe
```

Cisco Prime LMS連携ツールは、自己解凍形式で提供しています。コマンドを実行したディレクトリ内に「CW2KTOOLディレクトリ」が作成され、このディレクトリ内に以下に示す各種連携ツール(インポート用CSV作成ツール、メニュー登録ツール、Syslog連携ツール、DFM連携ツール、Change Audit連携ツール、登録用サンプルCSVファイル)が解凍されます。

```
CW2KTOOL+-+CSVImport+-+enterprises.ini
          |--SCMtoCW.vbs
+-+CWmenu-----+--addmenu.bat
          |--delmenu.bat
          |--BrowserCheck.bat
          |--ReplaceDowbleQuote.bat
+-+Syslog-----+--1.3.6.1.4.1.211.4.1.4.8.cnf
          |--mksdtrap.bat
          |--syslogcnv.bat
          |--syslogcnv.sh
+-+DFM-----+--ciscoMgmt.311.cnf
          |--dfmcnv.bat
          |--dfmcnv.sh
+-+Caudit-----+--enterprises.9.9.143.2.0.cnf
          |--enterprises.9.9.143.2.cnf
          |--caudit.bat
          |--caudit.sh
+-+sample-----+--CWsamp_v2.csv
          |--CWsamp_v3.csv
+-+readme(本説明書)
```

(4) Cisco Prime LMS連携ガイドを参照し、必要なツールを適用します。

3. その他の留意事項

特になし